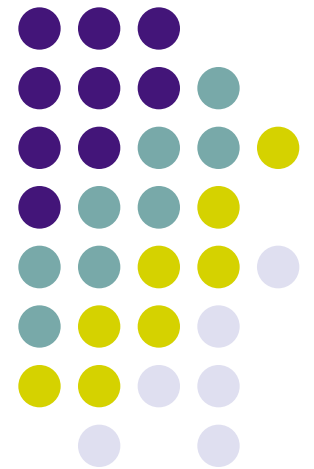
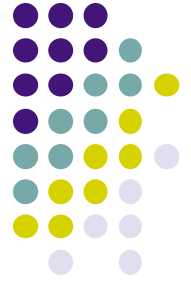


方言調査 2

サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所
南 雅彦





なぜ方言調査を行なうのか

	文献	方言
地理的範囲	中央語	中央語と地方語
使用者層	上流階級・知識人	庶民
推定年代	絶対年代(具体的な数字で表示された年代)	相対年代(新旧関係しか捉えられない)
文体	書き言葉が中心	話し言葉のみ

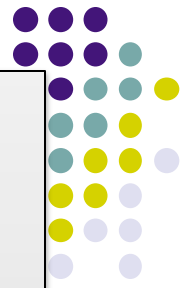
(小林隆『方言が明かす日本語の歴史』)



なぜ方言調査を行なうのか

- 音声言語 (orality) と書記言語 (literacy) の相違を認識する。
- 共時相と通時相の両側面から言語使用を捉える。
 - 中央語の歴史
 - 文献(いわば化石)は中央語の歴史には強いが、地方語の歴史には弱い。
- 書き言葉に比べ、話し言葉が捉えにくい。
書き言葉と話し言葉は異なる。
 - 上層階層の書き言葉の歴史を示す文献というフィルターを通すと、庶民階層の話し言葉の歴史がわからない。

(小林隆『方言が明かす日本語の歴史』)

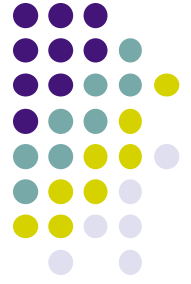


- 方言が映し出すのは上層の「書き言葉」の歴史ではなく、下層の「話し言葉」の変遷である。
- 上層の言葉が直接、方言に伝わらない。
- 商人や庶民の交流の結果として。
- 荻生徂徠(-1728)「古の詞は多く田舎に残れり」(『南留別志』)
- 本居宣長「すべて田舎には、いにしえの言の残れること多し」(『玉勝間』)
- 方言地理学的に言うなら「方言への旅」は「時間への旅」である。

話の歴史には弱い。

- 書き言葉に比べ、話し言葉の歴史はよくない。
- 書き言葉と話し言葉の歴史の乖離が大きい。
- 上層階層の書き言葉を示す文献というフィルターを通すと、庶民階層の話し言葉の歴史がわからない。

(小林隆『方言が明かす日本語の歴史』)

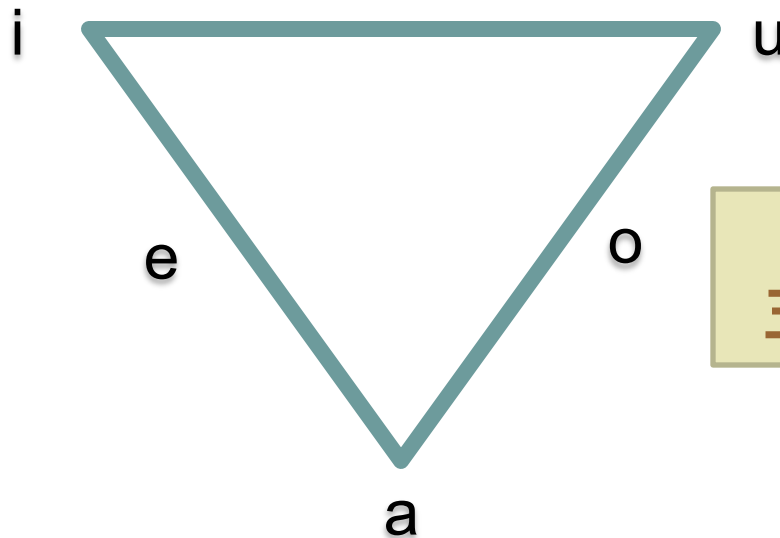


なぜ方言調査を行なうのか

- 比較方言学

- 本土方言と沖縄方言の比較（沖縄方言が分化）
- オモテ → ツラ → カオ
- ウムチ（琉球八重山地方）

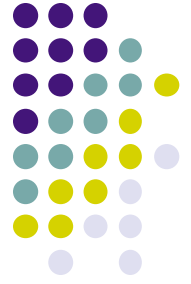
omote



本土方言
五母音体系

「本土方言」とは、
後に述べる
「方言区画論」で
琉球方言以外を
指す呼び方。

（小林隆『方言が明かす日本語の歴史』）



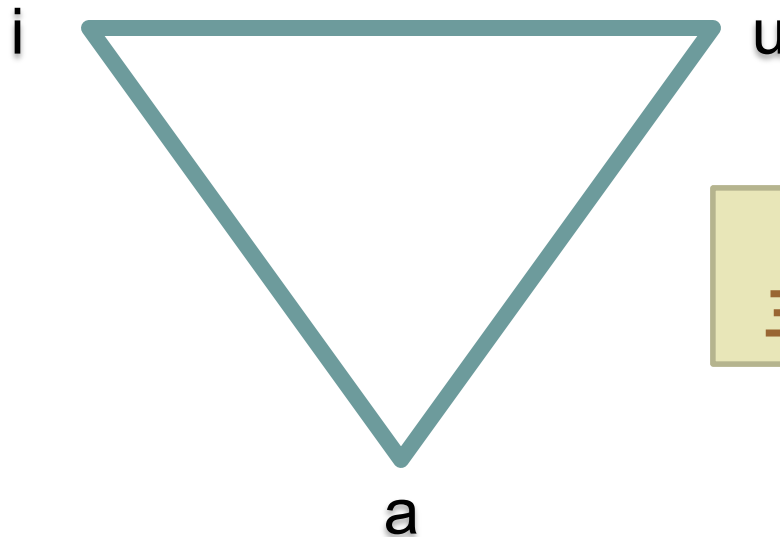
なぜ方言調査を行なうのか

- 比較方言学

- 本土方言と沖縄方言の比較（沖縄方言が分化）
- オモテ → ツラ → カオ
- ウムチ（琉球八重山地方）

omote

umuti



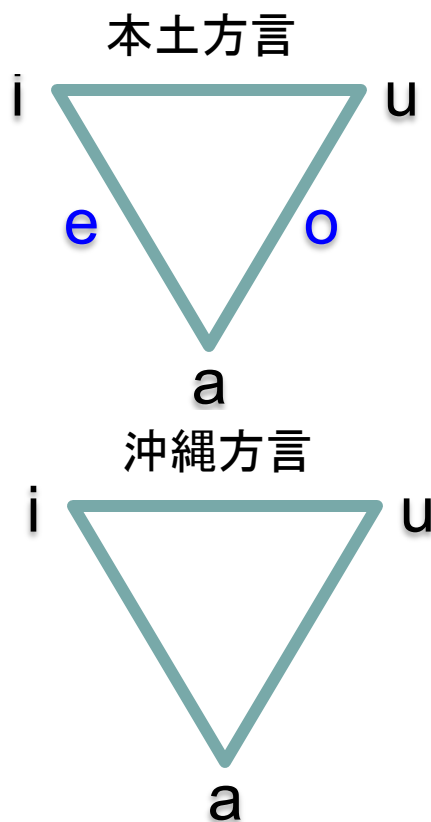
沖縄方言
三母音体系

「本土方言」とは、
後に述べる
「方言区画論」で
琉球方言以外を
指す呼び方。

（小林隆『方言が明かす日本語の歴史』）



なぜ方言調査を行なうのか



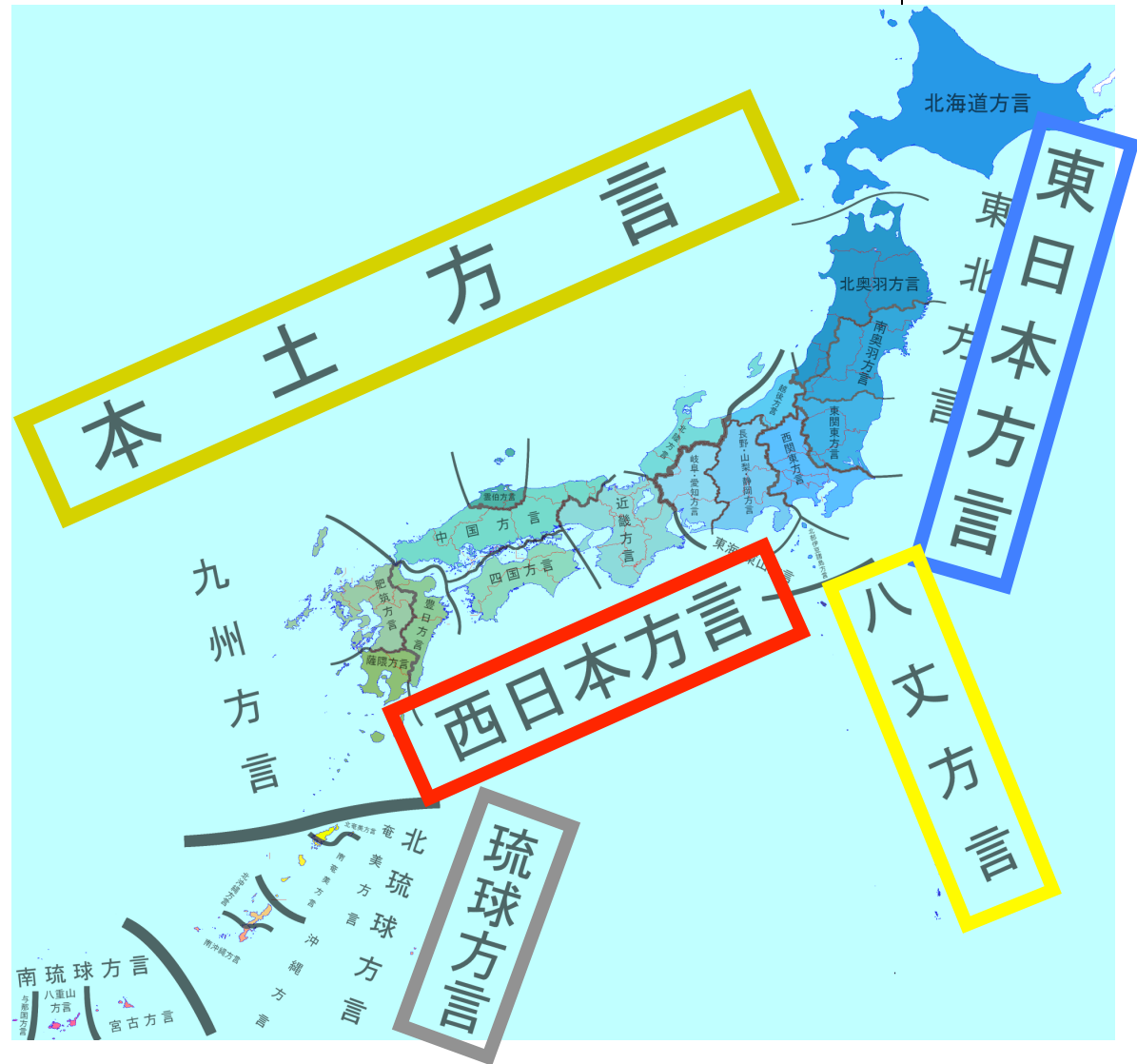
母音体系の単純化のため
五母音から三母音へと変化
したと推定される。

	東京	首里
雨	ame ^e	ami ⁱ
開けて	akete ^e	akiti ⁱ
酒	sake ^e	saki ⁱ
骨	hone ^e	funi ⁱ
髪	ke ^e	kii ⁱ
帯	obi ^o	ubi ^u
星	hoji ^o	fuji ^u
緒	o ^o	uu ^u
袖	sode ^o	sudi ^u
心	kokoro ^o	kukuru ^u

なぜ方言調査を行なうのか

● 方言区画論

- 方言区画を扱う方言学の一分野。
東条操(1927)によれば、日本全域は内地方言と沖縄方言に分けられ、内地方言はさらに東部方言・西部方言・九州方言に分けられ、東部方言はさらに北海道方言・東北方言・関東方言に分けられる。(大辞林)

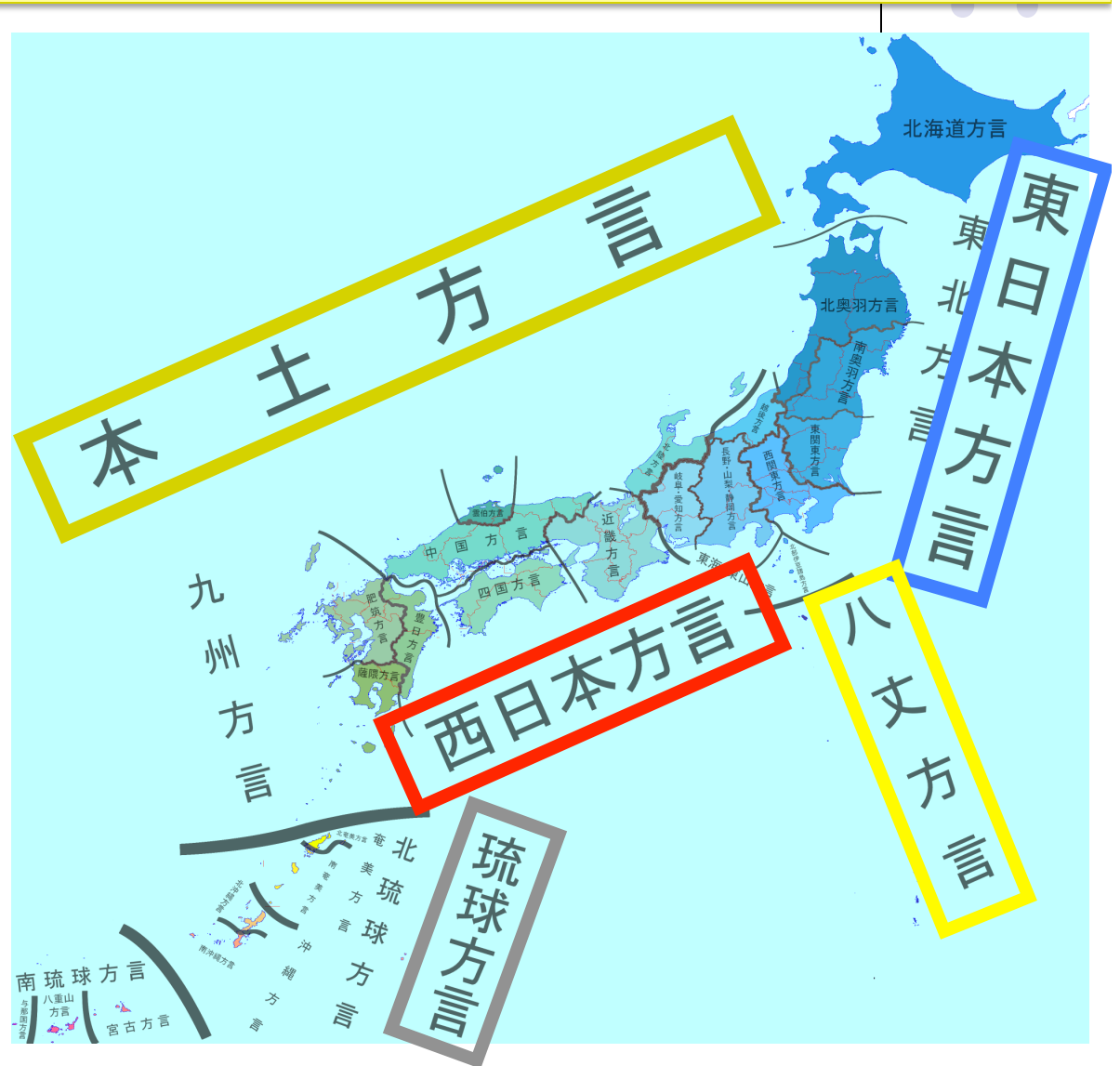


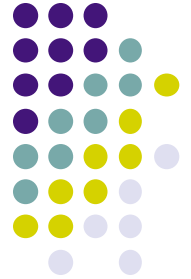
等語線 (isogloss)

言語地図の上で、語・発音・語義・アクセントなど言語要素において、同じ言語現象を示す地域と、そうでない地域を分ける境界を示す線。

● 方言区画論

- 方言区画を扱う方言学の一分野。
東条操(1927)によれば、日本全域は内地方言と沖縄方言に分けられ、内地方言はさらに東部方言・西部方言・九州方言に分けられ、東部方言はさらに北海道方言・東北方言・関東方言に分けられる。(大辞林)





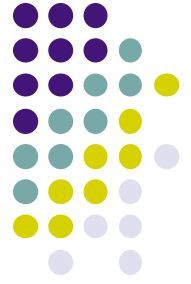
なぜ方言調査を行なうのか

- 文献と方言の矛盾 (小林隆『方言が明かす日本語の歴史』)
- 文献に基づく変遷図

奈良	平安	鎌倉	室町	江戸	明治以降
ななしゅび					
くすしゅび					
べにさしゅび					
くすりゅび					

- 方言に基づく変遷図

ななしゅび	くすりゅび	べにさしゅび
-------	-------	--------



行なうのか

小林隆『方言が明かす日本語の歴史』)

図

倉	室町	江戸	明治以降
しゅび			
べにさしゅび			
くすりゅび			

図

くすりゅび	べにさしゅび
-------	--------

パターン1:もともと「くすりゅび」、後から西日本に「べにさしゅび」が広まり、東西対立が生じた。

パターン2:もともと「べにさしゅび」、後から東日本に「くすりゅび」が広まり、東西対立が生じた。

パターン3:何か別の語が全国を支配していたところ、西で「べにさしゅび」、東で「くすりゅび」が生まれ、ほぼ同時に勢力の拡大を図った結果、両者がぶつかった。